

カテ装置におけるボイスコントロール 【SMART Voice】機能の初期使用経験



小堀 裕一 先生

東光会 戸田中央総合病院 心臓血管センター内科
小堀 裕一

1. はじめに

血管撮影システム Trinias series with SCORE Opera を、当院心臓血管センターに導入して1年がたった。装置の機能も習熟し、その性能もかなりの部分が把握できた。今回はその詳細を紹介するとともに、新たに導入した音声認識を利用したボイスコントロール機能の初期使用経験と今後の展望などを述べたい。

2. Trinias series with SCORE Opera の概要

今回導入した Trinias series with SCORE Opera (以下 Trinias) はメーカーの触れ込みでは十数年ぶりのフルモデルチェンジであり、外観デザインからユーザインターフェース、機能詳細に至るまで様々な改良が加えられている。

まず外観であるが、Cアーム全体やケーブル処理、インターフェースも含めシンプルで近代的なデザインになっていると感じる。そのデザインに合わせるため、装置更新時にカテ室の壁面や天井、床も白と黒を基調とした先進的なデザインにした (Fig.1)。また、特にテーブルサイドのコントロールモジュールやタッチパネルの操作性は筆者自身も相当使いやすいと感じている。また操作室側も、統合モニタ SMART Display が導入されスペース効率の良い運用を可能にしている。その他にも、成長をコン

セプトとしたアプリケーションプラットフォーム SCORE Link など、装置の新規導入後でも新たな機能を期待できる仕組みも取り入れられている。



Fig.1 2023年9月に導入したバイプレーンシステム
Trinias B8s with SCORE Opera

3. テーブルサイドコントロールモジュール

今回導入したシステムの操作卓 (Fig.2) はシンプルに設計されており、なによりもタッチパネル (SMART Touch) が非常に扱いやすいと感じている。SMART Touchには多くの機能が集約されており、それらがカスタム、プロトコール、ツール、モニタ、Cアームの5つのタブに分けてわかりやすく設計されている (Fig.3)。



Fig.2 シンプルなテーブルサイドコントロールモジュールとタッチパネル